



関係者と記念撮影をする横山さん夫妻（写真前列中央）

市政発展に尽力された功績を称える 令和3年小林市市民表彰

11月3日、令和3年の小林市市民表彰が文化会館で行われました。式典では、市政の発展・向上に功績のあった横山章司さんに表彰状が授与されました。横山さんは「本日の表彰を契機に、より一層心をひきしめ、豊かな郷土小林のため今後とも努力します」と謝辞を述べました。



<教育・芸術・体育・文化部門>

よこやま しょうじ
横山 章司 さん

30年の長きにわたり、須木村スポーツ少年団本部長、合併後の小林市スポーツ少年団本部長として、毎年登録団員数およそ2,000人、40を超える市内スポーツ少年団の運営や各種大会開催はもとより、スポーツ少年団の集いなどの独自大会実施に尽力。またスポーツ少年団の指導者を務めるなど、体育振興を通じて青少年育成に貢献した。

ラジオの公開収録にドキドキ

10月24日、南小の5、6年生がKITTO小林で行われた、MRTラジオ番組「んだモシタン西諸Radio」の公開録音に参加しました。市PR大使で同番組のパーソナリティの大野勇太さんが講話を行った後、番組録音では児童が市や小学校をPRしました。



高齢者の活躍を促進 深草彰三さんがシニアパワー受章

11月1日、高齢者の社会参加の一層の促進などに貢献した個人・団体を表彰する「みやざきシニアパワー章」を深草彰三さんが受賞し、市長に報告しました。今年は県内で2団体・2個人が受章。深草さんは悪天候でも休むことなく続けている交通安全指導・見守り活動やボランティア活動の推進が評価され、同章を受章しました。



深草さん（写真④）は「地域のために何かできないかと思ひ活動しています。いただいた章に負けないようがんばっていききたい」と受賞の喜びを語りました

収穫の喜びと美味しさを体験

10月19日、中河間地区のほ場で、すきむらづくり協議会が栽培した「からいも収穫」が行われました。この事業は協議会がすき酒造と連携して、焼酎製造を行う目的で栽培されたもので、収穫には須木中央保育園と須木小学校の子どもたちも参加しました。



読書好きの市民で賑わう

10月23日、市立図書館で読書まつりが開催されました。本の譲渡市や読みきかせ会、オリジナル読書カードづくりなどが開催され、多くの市民が来場。図書館入口前で行われたライブ書評には来場者も飛び入り参加し、自分のお気に入りの本を紹介していました。



できていますか？ 地震への備え



●問=危機管理課 TEL 23-1175

市では、11月11日に防災訓練（災害図上演習）を実施。日向灘沖を震源として小林市でも震度6弱の揺れが発生したと想定し、ロールプレイング方式で道路の寸断や避難者の対応などのさまざまな状況にどう対応するかを訓練しました。

地震はいつどんな状況で発生するか分かりません。いざというとき慌てないために、皆さんも避難方法や地震対策を確認しておきましょう。



地震が発生したら、どうする？

周囲の状況に応じてあわてず落ち着いて
まず、命を守る行動を！

基本の安全確保行動

まず低く！頭を守り！動かない！

日頃からできること

家族で話し合しましょう

災害が発生したときの役割分担や離れ離れになったときの連絡方法、避難場所などを確認しましょう。

近所や地域とのつながりを持ちましょう

大規模災害では地域での助け合いが必要になります。日ごろから顔の見える関係を心掛けましょう。

地震発生時の時間経過別行動マニュアル（「小林市総合防災マップ」より）



最初の大きな揺れは約1分

- 頭を保護し、丈夫な机の下などの安全な場所に避難
- あわてて外へ飛び出さない
- 無理に火を消そうとしない



揺れがおさまったら

- 火元を確認。火が出たら落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認（倒れた家具の下敷きになっていないか）
- 靴や厚手のスリッパをはく（散乱したガラスに注意）
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 災害弱者の安全確保、隣近所で助け合う
- 行方不明者やけが人がいないか確認
- 消火器、バケツリレーで初期消火。風呂の水はため置きに。
- 漏電・ガス漏れに注意。ブレーカーを落とし、ガスの元栓をしめる
- 余震に注意

ラジオなどで正しい情報を得る

- 大声で知らせる
- 救出・救護を行う
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマに惑わされない
- 避難するときは極力車を使わない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動

- 水・食料は蓄えているものでまかなう。3日間の飲料水と食料を備蓄
- 災害・被害情報の収集
- 無理はしない
- 助け合いの心が大切
- 壊れた家に入らない

健幸のまちづくりを推進

応募総数710点から選出！
ポスターで健幸のまちづくりを啓発

小学生の部最優秀賞

健康の大切さをどうやって伝えるかを考えて描きました。ポスターを見て、健康について考えてくれると嬉しいです。



野尻小5年
やました めい
山下 盟苺さん

中学生の部最優秀賞

小林のおいしい食べ物を食べて健康になってほしいと思います。また、市外の人も「小林に行ってみよう」と感じてもらえると嬉しいです。



永久津中1年
いまべつ みつき
今別府 美月さん

11月10日、健幸のまちづくりをテーマとしたポスターコンクールの表彰式がありました。同コンクールは、生活の基本でもある「健康」の重要性について考え、健康づくりへの積極的な取り組みを啓発するために実施。最優秀賞作品は、市の健幸のまちづくり啓発ポスターとして、市内各所で掲示されます。



心のレンズの使い方を学ぼう

11月2日、のじり生涯学習講座で「スマートフォン&カメラでの撮影の楽しみ方講座」が開催されました。市内在住のフォトグラファー・田中風馬さんから写真を撮るときに注意したいことを教わった後、心に残った風景の撮影にチャレンジしました。



たなかふうま
田中風馬さん

先人の苦勞を知る小学生が稲刈り体験

米作りの工夫や苦勞を学び、食文化などについて考える食育活動として稲刈りが各学校で行われました。西小林小では10月29日に、学校PTAやこばやし農協青年部の協力のもと開催。同校の5、6年生45人が稲刈りを体験し、汗を流しました。



地域の素敵を発掘！坂元文化展

11月6日、7日に坂元親子会館で坂元文化展が開催されました。地域住民の作品や活動記録、農産物とふれあい、地域に愛着を持ってもらうことが目的。坂元区の中島信行区長は「地域には素敵なものが多くあることを知ってほしい」と話していました。



鎮魂と地域の安全を願って

10月30日、伊集院源次郎公例祭が開催されました。悲劇の武将、伊集院源次郎の鎮魂と地域の安全を願って100年以上続いている行事で、神事後、郷土史研究家の園田隆さんの講話、地域住民によるとむらい踊りの奉納と四半的の納射が行われました。



同イベントは昨年コロナの影響で中止となったイベント。今回は県内限定で参加者を募集、JR吉都線と自転車を利用して2市1町管内を巡りました

全国初開催イベント
鉄道利用のサイクルロゲイニング

11月7日、自転車で散策しながら制限時間内にチェックポイントを周るサイクルロゲイニングと、自転車をそのまま鉄道車両で移動させるサイクルトレインを組み合わせた全国初のイベント「第1回サイクルロゲイニング in 北霧島」(主催：小林まちづくり株)が開催されました。参加者50人は北霧島の自然の中を駆け抜けました。

森林管理の推進に寄与
伊藤哲さんが県文化賞を受賞

宮崎県の文化の向上発展に特に顕著な業績を有する者を表彰する『令和3年宮崎県文化賞授賞式』が11月5日県庁で行われ、本市出身の伊藤哲さん(宮崎大学農学部教授)が受賞しました。

生物多様性等に配慮した自然林再生や人工林施業の研究などにより、全国的な森林管理の推進に寄与した功績などが受賞につながりました。



伊藤さん(写真右)は「大変ありがたく思っております。受賞に恥じぬよう、今後も精進してまいります。」と受賞の感想を述べました

誓いを新たに思い描く看護職を目指す

小林准看護学校「戴帽式」・小林看護医療専門学校「誓いの式」

11月5日、小林准看護学校の戴帽式が市民活動支援センターで行われました。令和4年度末に閉校する同校の最後の戴帽式となった今回、戴帽された1年生12人を代表して、松下芽留さんが「意欲を持って日々の学生生活を大切に、明るく、温かな心で思いやりのある看護ができる看護職を目指します」と決意を述べました。



園田定彦校長は「人としてのモラルやコミュニケーション力が問われる時代。より良い人間関係を築くことを心がけてください」と生徒を激励しました。

また、11月12日には小林看護医療専門学校が誓いの式を中央公民館で挙。1年生42人が「すべての人々への感謝を忘れず、誠心誠意努力できる看護職を目指します」と自分たちで紡いだ言葉を誓いました。志戸本宗徳校長は「今日を機会に看護職についてもう一度真摯に向き合い、誓いを忘れずに学業に励んで欲しい」と話しました。



式を終えた1年生の甲斐菜理さんは「これからさらに勉強をがんばり、患者様やご家族に寄り添える看護師になりたい」と感想を話してくれました

Photo Report

創部以来初の快挙！

小林秀峰高校野球部が県大会優勝

小林秀峰高校野球部が、10月に開催された「第149回九州地区高等学校野球大会宮崎県予選」で優勝し、九州大会本選に出場しました。同部の県大会の優勝は小林秀峰高校創立・創部以来初の快挙です。

また、勝ち上がれば春の選抜高等学校野球大会(甲子園)につながる九州大会本選では、11月7日に行われた1回戦で長崎日大高校(長崎県)と

対戦。結果は、残念ながら敗退してしまいましたが、最後まであきらめないプレーに会場からは惜しみない拍手が送られました。

試合後、主将の田口瑛竣さんは「ミスがあったりして途中から自分たちのプレーをさせてもらえませんでした。今回の試合で出たミスや緊張でうまくプレーできなかった部分をこの冬で克服したい」と意気込みを話してくれました。

◆九州大会の様子



スポーツ感覚のごみ拾いで
小林西高校生徒が観光地の美化に協力

10月28日、スポーツ感覚でゴミを拾い、ゴミの質や量に応じた得点で順位を競う「スポGOM I」が開催され、小林西高校普通科1~3年生や育英幼稚園の児童ら約70人が参加しました。

このイベントは、小林西高が「総合的な探求の時間」の授業で取り組んでいる「こばやし魅力化プロジェクト」内で、生徒たちが企画したもの。

参加者には、花の駅生駒高原と共同で開発した

新商品「いこマフィン」も振る舞われました。

中心となって企画した3年生の坂下瑞季さんは、「ごみ拾いの範囲や配点などのルールづくりが大変でした。不安でしたが成功してよかった」、同じく3年生の大川平鈴菜さんは、「スポGOM Iは、まちが綺麗になるだけでなく人と人とのつながりもできるので、小林全体にも広げたい」と話していました。



植込みの下など、生駒高原付近の隅々までゴミ拾い(写真左)、高校生と一緒にゴミを拾う園児(写真真ん中)、中心となって企画した普通科3年生のメンバーと新商品「いこマフィン」(写真右)

秋の五穀豊穣に感謝する
ほぜまつりを盛大に開催

11月3日、本庄川河川敷広場でほぜまつりが開催されました。当日は小学生によるほぜっこ相撲、地区・学校職員対抗による左近太郎競技が行われ、会場では須木米などの特産品や飲食物の販売も行われました。晴天の中、約1,000人の来場で賑わいました。



熱戦が繰りひろげられたほぜっこ相撲



二人の呼吸が試された左近太郎競技



保育園、小・中学生のダンスや演舞と賑わった会場